

マーケットの窓

Sample

2020年2月3日更新

前日の国内指標の終値を確認するとともに、最新の米国市場概況をお伝えいたします。
 [毎営業日の8時30分~45分頃更新]

国内指標：1月31日終値

日経平均	23,205.18 前日比 +227.43
TOPIX	1,684.44 前日比 +9.67 東証一部出来高 137692万株
東証マザーズ指数	823.37 前日比 +11.60
225先物	23,130 前日比 +160
東証二部指数	7,078.46 前日比 +22.19
日経ジャスダック平均	3,793.65 前日比 +19.72

サイコロジカルライン

(日経平均) 7勝5敗 ○○○●●●●●●○○○

米国市場：1月31日(現地日)終値

NYダウ	28,256.03 前日比 -603.41 NYSE出来高 131905万株
ナスダック総合指数	9,150.936 前日比 -147.998 ナスダック出来高 269439万株

サイコロジカルライン

(NYダウ) 6勝6敗 ○○○●●●●●○○○●

(ナスダック指数) 8勝4敗 ○○○●○○●●○○○●

NY為替	ドル/円	108.34-108.35
	ユーロ/円	120.18-120.22
原油先物WTI		51.56 前日比 -0.58
CME225		22,710 前日比 -485

[投資情報](#) >

[マーケットの窓](#) >

[トピックス 投資のミカタ](#) >

[岩井コスモ投資情報](#) >

[アナリスト銘柄情報](#) >

[高利回り銘柄特集](#) >

[株式分割銘柄](#) >

[米国株オリジナル個別銘柄情報](#) >

[中国株オリジナル個別銘柄情報](#) >

[ベトナム株オリジナル個別銘柄情報](#) >

NY概況

大幅安。株式市場は売りが優勢となった。

新型コロナウイルスの感染が世界に拡大する中、世界経済への影響が懸念されて株式市場には引き続き売りが広がった。30年債利回りは昨年10月以来の2%割れに低下した。ダウ指数は安く寄り付き、ズルズルと値を下げる展開となった。昼過ぎにNY市で初の感染を疑う報道を受けて、株式市場は一段安、ダウ指数は前日比500ドル安を下回った。引けにかけて一時前日比689ドル安まで売られた。アップル、ビザがダウ指数の下げを主導、一方で、IBMは上昇した。また、好業績発表となったアマゾン・ドットコム、小売りのデッカーズ・アウトドアが大幅高となった。10業種が下落。エネルギー、情報技術の下落が目立った。ダウ指数は前日比603.41ドル安の28,256.03、ナスダック指数は148.00安の9,150.94で引けた。

週間展望

【日経平均株価 22500円～23100円】

- ・先週の日経平均株価は622円安と大幅統落、新型肺炎の感染拡大に歯止めが掛からないなか、決算発表に対するネガティブな反応も相次ぎ、一気に調整色を強めました。30日にはアジア株総売りのなか、約3か月ぶりに心理的節目の23000円を割り込み急落を見せましたが、週末は日米企業の好決算を支えに持ち直しました。
- ・世界保健機関（WHO）が緊急事態宣言を出したことで、各国の封じ込め策も相俟って徐々に警戒ムードは緩和していくと見えています。景気への悪影響を含め、相応の悪影響を織り込んだ可能性が高く、感染スピードの低下などのニュースが伝われば、ファンダメンタルズに沿った急ピッチな修正高が実現することも期待されます。
- ・今週は大幅安スタートのあと、下値を固められるが焦点となります。決算前半戦は全体としてはほぼ想定内の内容で、半導体や5G関連の回復を支えとした来期以降の業績持ち直しシナリオは維持されたと考えます。騰落レシオの80%割れなど下値到達感も浮上しており、中期的には好業績株の仕込み場と判断しています。

【ドル円相場 1ドル=108.00～110.00円】

- ・先週は、新型肺炎の感染拡大に歯止めが掛からず、中東情勢への警戒が強まるなかでも、一定の円高抵抗をみせる展開となりました。強い米景気指標を受けて、ドル選好の流れが大きくは崩れなかったうえ、108円台では本邦実需のドル買いオーダーが確認されたことなどが背景です。
- ・FOMC声明やパウエルFRB議長発言が「ハト派」的との受け止めから米金利が大きく低下し、日米金利差は4年9か月ぶりの低水準に縮まりました。しかし、プラスを維持する米国債の利回り魅力がドルを強力にサポートした結果、影響は限定的なものに留まっています。
- ・今週は、ドルの足取りがよりしっかりしたものになる見通しです。新型肺炎への警戒はついてもまわるとみられますが、週末の雇用統計に向けた一連の主要経済指標は米国のファンダメンタルズの良好さを裏付けるとみているためです。本邦主要企業決算を受けた株価の動向にも、留意が必要となりそうです。

© S&P Dow Jones Indices LLC 2016. All rights reserved.

▲ 金融商品の取引にかかる手数料およびリスクについて

当社が取扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等をお読みください。

[手数料等・リスク重要事項 >](#)

ご留意事項

- ・当サイトに掲載されている情報は、当社のご案内やその他の情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。情報のご利用にあたっては、お客様ご自身で判断なさいますようお願いいたします。
- ・当サイトに掲載されている情報に関しては万全を期しておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、掲載されている情報等は最新の情報ではない可能性があり、予告なく変更・廃止されることもありますので、あらかじめご了承ください。
- ・万一、当サイトに掲載されている情報を用いたことにより、何らかの損害を被った場合でも、当社および当社に情報を提供している第三者は一切責任を負うものではありません。
- ・当サイトからバナー・テキストリンク等でアクセスできる第三者が運営するサイトは各々の責任で運営されているものであり、こうした第三者サイトの利用により生じたいかなる損害に関しても、当社は一切責任を負うものではありません。
- ・証券投資に関する最終決定は、お客様ご自身で判断いただきますようお願いいたします。

